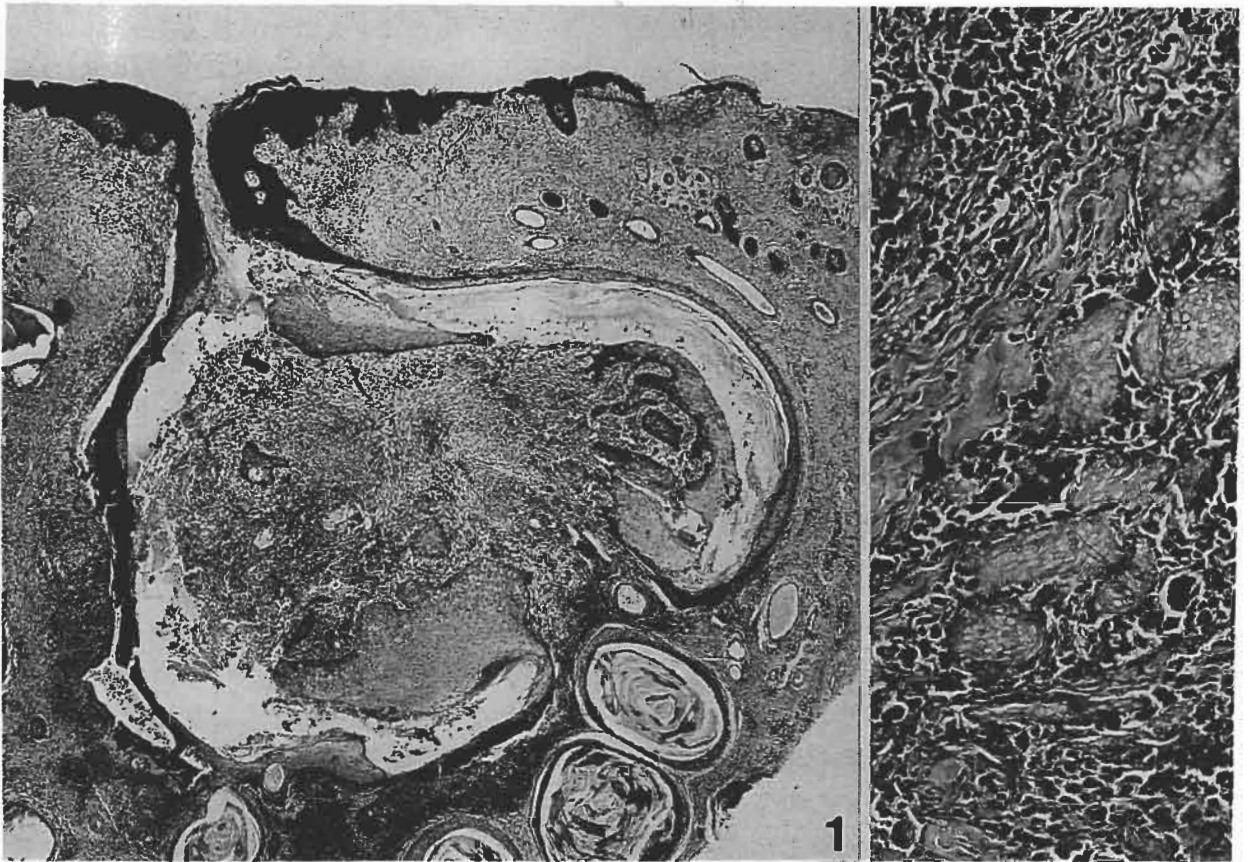


犬の皮下腫瘍

岩手大学農学部家畜病理学教室出題 第32回獣医病理学研修会標本No.564



動物：犬，スピッツ。

臨床事項：平成2年11月29日に、約2ヵ月前より左前肢に腫瘤ができたとのことで、岩手大学家畜病院に来診。初診時、左足根関節部皮下と、左最後乳頭下の乳房に、拇指大の腫瘤が認められた。一般検査、血液検査、胸部X線検査にて特に異常が認められないため、平成2年12月18日に左側乳房摘出術、及び左後肢腫瘤摘出術を実施。

肉眼所見：足根関節部皮下腫瘤の大きさは、 $2.5 \times 1.7 \times 0.5$ cm。剖面で針頭大の白色硬結部を数個認めた。

病理組織学的所見：提出標本では、一方の皮下組織内において、扁平上皮細胞で裏打ちされた嚢を作っており、嚢壁の一部は細胞が増殖し重層化していた。内部には陰影細胞の出現とケラチン産生を見、さらに好中球、形質細胞、マクロファージの浸潤を認めた(図1, H E染色, $\times 10$)、他方の皮下織内においては、陰影細胞と思われる硝子様異物の周囲に、巨細胞、形質細胞、マクロファージが著しく浸

潤し、肉芽腫像を呈していた(図2, H E染色, $\times 30$)。この他にも、毛包、汗腺の拡張、上皮細胞の肥厚、線維素の産出、一部提出標本におけるコレステリン結晶形成などを認めた。乳房の腫瘤は、腺腫線維腫、筋上皮腫からなる混合腫であった。

考察：我々は当初非腫瘍性の「表皮性封入性嚢胞並びにそれによる異物性肉芽腫」と考えた。しかし扁平上皮細胞性の嚢壁が一部で重層となり著しく肥厚している点、嚢内部に陰影細胞を認める点、巨細胞を伴った異物性肉芽腫像を認める点から、研修会の席上、腫瘍性ではないかとの意見が多く、結局、毛包上皮腫と診断された。毛包由来の腫瘍には、毛包上皮腫(Trichoepithelioma)、毛質性上皮腫(Pilomatrixoma)、毛根鞘腫(Tricholemmoma)などがあるが、陰影細胞の形成、異物巨細胞の出現などの点より、その中でも毛質性上皮腫とされるかもしれない。ただ腫瘍が異物反応により処理されることに対する基本的な疑問は処理されていない。

病理組織学的診断：毛包上皮腫。